

読む

物語文を読もう

名前

次の文章を読んで問題に答えましょう。

ガチョウのたん生日

にいみなんきち
新美南吉



あるおひゃくしょうやのうら庭にアヒルや、ガチョウや、モルモットや、ウサギや、イタチなどが住んでおりました。

さて、ある日のこと、ガチョウのたん生日というので、みんなはガチョウのところへいこちそつにまねかれて行きました。

これで、イタチさえよんでくれば、みんなお客がそろつわけですが、さて、イタチはどうしましょう。みんなは、イタチは決してわるものではないことを知っております。けれど、イタチには、たったひとつ、よくないせがありました。それは、おおぜいの前では、言うことができないようなくせでありました。何かともうしますと、ほかでもありません、大きなげいおならをすることあります。しかし、イタチだけをよばないと、イタチはきつとおこるにちがいありません。

そこで、ウサギがイタチのところへつかいにやつていきました。

「今日はガチョウさんのたん生日ですからおでかけください。」

「あ、そうですね。」

「ところで、イタチさん、ひとつおねがいがあるのですが。」

「何ですか。」

「あの、すみませんが、今日だけはおならをしないでください。」

イタチははずかしくて、顔を真っ赤にしました。そして、

「ええ、決してしません。」と 答えました。



(新美南吉「ガチョウの誕生日」より)

一、登場人物をすべて書きましょう。

二、登場人物の中で「みんな」の中にいないのはだれですか。

三、「さて、イタチはどうしましょう。」と考えたのはなぜでしょう。ア、イにあてはまる言葉を入れて、次の文を完成させましょう。

イタチは決してア ではないが、
イ をするくせがあったから。

四、イタチが顔を真っ赤にしたのはなぜですか。次のア～ウの中からあてはまるものをえらんで、 に記号を書きましょう。

- ア 大好きなガチョウのたん生日にさそわれたから
- イ 気にしているくせについてお願いをされたから
- ウ 自分がさいごにさそわれてくやしかったから

手ぶくろを買いに

新美 南吉 にいみ なんきち

寒い冬が北方から、きつねの親子のすんでいる森へもやって来ました。

ある朝、ほらあなから子どものきつねが出ようとしたが、

「あつ。」

とさけんで、目をおさえながら母さんぎつねのところへころけて来ました。

「母ちゃん、目に何かささった、

ぬいてちょうだい早く、早く。」
と言いました。

母さんぎつねがびつくりして、あわてふためきながら、目をおさえている子どもの手を A 取り

のけてみましたが、何もささってはいませんでした。母さんぎつねは、ほらあなの入り口から外へ出てはじめてわけが分かりました。昨夜のうちには、真っ白な雪がどっさり降ったのです。その雪の上からお日さまがキラキラとてらしていたので、雪はまぶしいほど反しやしていたのです。雪を知らなかった子どものきつねは、あまり強い反しやをつけたので、目に何かささったと思ったのです。

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのようによわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉が、しぶきのようにとびちって小さいじがすつとつづるので、するとつぜん、ししるで、ドタドタ、ザーッとものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさって来ました。子ぎつねはびつくりして、雪の中にくるがるまっつにして十メートルも向こうへにげました。何だろうと思ってふり返ってみましたが何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのです。まだえたとえだの間から白いきぬ糸のようにつに雪がこぼれていました。

(新美南吉)「手ぶくろを買いに」より



上の文をよく読んで次の問いに答えましょう。

【場面を読み取る】

一、季節と登場人物を文中から抜き出しましょう。(季節 一文字 登場人物 六文字)

季節
登場人物

--	--	--	--	--

(六文字)

【内容をたしかに読み取る】

二、部 で、子ぎつねが目には何ですか。思ったものは何ですか。当てはまるものに丸を付けましょう。

- () 真っ白な雪
- () お日さまの反しやした強い光
- () もみの木の枝

【様子をそとそうしてながら読む】

三、A の中には、子ぎつねのことを心配する母さんぎつねの気持ちを表す言葉が入ります。当てはまるものに丸を付けましょう。

- () おそろおそろ
- () つぎつきしながら
- () ゆっくりと

【よつすや動きを表す言葉から心情を読み取る】

四、上の文には、ものすごい音とかぶさってきた雪におどろく様子が書かれています。それはどんな様子でしたか。次の文の に言葉をを入れて完成させましょう。

雪の中に して へにげました。

【文章の組み立てをとらえて読む】

五、上の文章は、大きく三つに分けることができます。書かれている順番を () に書きましょう。

- () (子ぎつねが初めて雪を見た場面)
- () (物語の場面を説明するだん落)
- () (子ぎつねが雪の中で遊ぶ場面)

手ぶくろを買いに

新美 南吉

雪の中であそび、つめたくなつた子ぎつねの手を見て、母さんぎつねは手ぶくろを買ってあげようと思います。そこで、親子のきつねは、夜がくるのを待っていました。

暗い暗い夜がふるしぎのよう

なかけをひろげて野原や森をつつみにやつてきましたが、雪はあまり白いので、つっんでもつっんでも白くうかびあがっていました。

親子の銀ぎつねはほらあなから出ました。子どものはお母さんのおなかの下へ入りこんで、そこからまんまるな目をばちばちさせながら、あっちゃこつちを見ながら歩いて行きました。



やがて、行く手にぽつとり、明かりが一つ見え始めました。それを子どもはきつねが見つけて、「母ちゃん、お星さまは、あんな低いところにも落ちてるのねえ。」と聞きました。

「あれはお星さまじゃないのよ。」
と云つて、そのとき、母さんぎつねの足はすくんでしまいました。

「あれは 町の灯(ひ)なんだよ。」
その町の灯を見たとき、母さんぎつねは、あるとき町へお友達と出かけていって、とんだ目にあつたことを思い出しました。およしなさいつて言つのも聞かないで、お友達のきつねが、ある家のあひるをぬすもうとしたので、おひやくしょうに見つかつて、さんざ追いまくられて、命からがらにげたことでした。

「母ちゃん、何してんの。早く行こつよ。」
と、子どものきつねがおなかの下から言つのでしたが、母さんぎつねはどうしても足が進まないのでした。そこで、しかたがないので、ぼつやだけを一人で町まで行かせることになりました。

(よ) 手ぶくろを買いに「新美南吉

上の文をよく読んで次の問いに答えましょう。

【場面の様子を読み取る】

- 一、線 はどんな様子を表していますか。
あてはまるものに丸を付けましょう。
- () 夕方から夜になっていく様子
() 真夜中の様子
() 夜から朝になっていく様子

【動きやよつすを表す言葉から心情を想像する】

- 二、この子ぎつねは、はじめて夜に外を歩いていきます。そのことが分かる文を探して、次の文を完成させましょう。

まんまるな目を

させながら、

を見ながら歩いて行きました。

【内容をたしかに読み取る】

- 三、線 の「町の灯(ひ)」を見て、子ぎつねは何だと思いましたが。

【言葉の意味を理解する】

- 四、線 の「足が進まない」について、次の問いに答えましょう

- (1) 「足が進まない。」と同じ意味の言葉を文中からさがし、次の文を完成させましょう。

母さんぎつねの

は

しまいました。

【行動を表す言葉から心情を読み取る】

- (2) なぜ、母さんぎつねは足が進まなくなつたのですか。当てはまるものに丸を付けましょう。

- () 町の灯が星のようできれいだったから
() こわかったことを思い出したから
() 子ぎつねだけで町に行かせたかったから

第一話 題名

最近、中村家に首輪のない野良猫が来るようになった。茶色と白の模様をもった野良猫。まあ、もちろん、リビングの軒下あたりにやってきては、えさをやっていたから、なついていたんだろ。しかし、野良猫は野良猫。絶対に近づかない。近づかないけど、朝と晩になると必ず中村家に来て、えさをねだる。ただ、そのとき彼は、何となく野良猫の境界線を越え、家猫の敷居をまたぐとしていくようにも感じた。

まだ、そのときには彼に名前を与えていなかった。はじめは、中村家の人々は、野良猫！と呼んでいたが、あることをきっかけに名前を与えることになった。



それは、ある朝のこと、中村家の人々が朝食を取っていると、えさをねだりに彼がやってきたのだ。しかし、仕事にでかけるべく急いでいた中村家の人々は、えさをあげなかった。すると、彼は自分の存在をアピールし始めた。まず第一弾は、猫の小技で有名な「猫パンチ」を窓にかますのだ。コツコツとかわいい音をするが、それでも中村家の人々は無視して食事をガツガツと食べている。すると彼は第二弾となる思わぬ行動に打って出てきた。中村家のリビングの窓は、下半分が磨りガラスで上半分が透明なガラスである。そして、その窓のすぐ外には、ちょうど磨りガラスと透明ガラスの境目までくらいの高さがある岩があつて、そのすぐそばにヒイラギが立っている。彼は、その岩を登り、さらにヒイラギにも登った。そして、彼はちょうどヒイラギの枝が二股に分かれているところにすっぽり収まるように横たわり、両方の前足の上にあごを載せるようにして、枝をゆするのだ。ヒイラギがゆつさゆつさとゆれる。朝食を食べていた中村家の人は目を疑った。もう、まるで、だだをこねている子どものように、ゆつさゆつさと枝をゆする彼。中村家の人々は、思わず吹き出してしまい、しようがないとばかりに母親が魚を与えた。その行動は、中村家の人々がえさをやらないときには、必ずしていた。

「何か、飼い猫じゃないけど、飼い猫だね。名前は・野良猫だから、ノラちゃんだね。」

誰が言ったというわけではないが、そうなってしまった。野良猫のノラ。決して家には上がらないし、あげない。野良猫は野良猫なのだ。でも、ノラなのだ。彼のベッドは、庭のプランターである。

上の文章を読んで問いに答えましょう。

一 「ノラ」の姿や様子を一段落の中から読み取り、次の□に合う言葉を書きましよう。

□の
ない野良猫

□の
模様をもった野良猫

・絶対に□が、朝と晩になると必ずやってきて□。

二 □だだをこねている子どもとはノラのどのような姿を言っていますか。当てはまるものに丸を付けましよう。

() 「猫パンチ」をかます姿

() 枝をゆする姿

() 魚を食べる姿

三 □飼い猫じゃないけど、飼い猫だね。と考えたのはなぜですか。次の条件に合わせて書きましよう。

【条件】飼い猫ではないといえる様子と飼い猫だといえる様子を、ノラの行動から整理して書くこと

四 □題名□に当てはまると思つものに丸を付けましよう。

() 野良猫ノラ登場

() ノラの必殺技「猫パンチ」

() 中村家の人々